

「学校における業務改善」

「瀬戸内町立篠川小中学校」の実践紹介

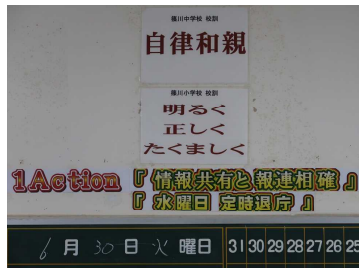
効果が期待される取組

業務改善に対する意識改革

～「1Action 1Try」の「見える化」と共有を通して～

実施前の課題

- 日々の業務量について校務分掌が集中している職員への負担感が大きい傾向にある。
- 「ノー残業デー」（定時退庁日）を設定しているが、取組が個人任せになっている面があり、形骸化している。
- 業務改善を自分事としてとらえるための具体的な手立てが十分ではなかった。

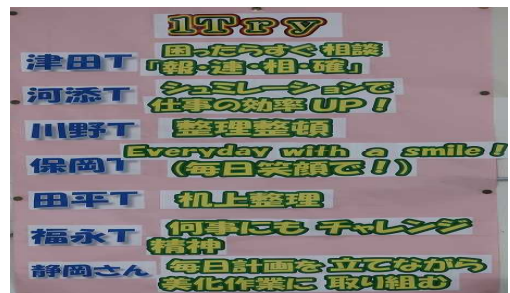
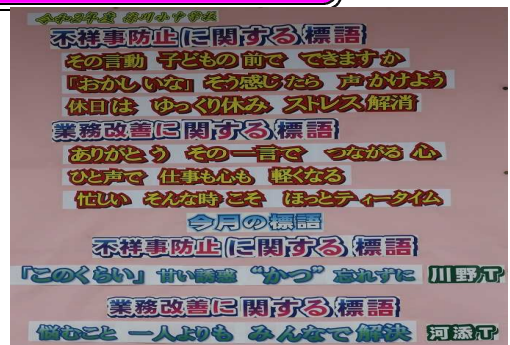


実施後の成果

- 具体的な目標を「見える化」することによって意識を高め、継続的に取り組むことができた。
- 個人の目標を設定、掲示することで短いスパンで振り返ることができるとともに、管理職からの適時の声掛けを行うことができた。
- 職員相互の目標を見合うことで学校全体で取り組もうとする雰囲気が醸成された。

業務改善を目指した取組の詳細

- 毎月、業務改善に関する標語を職員室後方に掲示する。
- 職員全体で取り組む「1Try」個人で取り組む「1Action」を設定し、目標の共有化を図るとともに、個々の状況に応じた具体的な目標を設定できるようにする。
- 毎週水曜日を「定時退庁日（ノー残業デー）」とし、計画的な業務推進に当たるように意識付けるようにする。
- 「1Try」「1Action」の進捗状況を毎月1回（職員会議時）の職員全体で振り返り、改善すべき点や継続すべき点を共有し、個人の目標の見直しを随時計れるようにする。



今後の課題、計画

- 小規模校のため、業務が一定の職員に集中する傾向にあるため、データの共有化や蓄積を進め、負担の軽減を進めていく必要がある。
- 業務改善の取組が形骸化しないように、管理職によるチェックの方法を定期的に見直す必要がある。